

ソレイユプロジェクト 穴水町・輪島市での復興ボランティアを実施

団体名●ソレイユプロジェクト／代表者名●高島 悠（進路支援課）

ソレイユプロジェクトとは？

「ソレイユ」とはフランス語で『太陽』という意味です。仲間と協同することで働き方の実践意識を高め、太陽のような光り輝く人間力を培うプロジェクトです。

穴水町での炊き出し(Vol. 1)

初年度のテーマは「能登復興支援」です。初回は能登半島地震で甚大な被害に遭った穴水町を拠点とし、「復興炊き出しボランティア」を企画しました。3年次学生37名の有志が集結。参加学生達は皆、「被災者の力になりたい」「若い力で被災地を活気づけたい」など、復興への高い意欲ある学生ばかり。8月3日(土)の実施に向けて、地元で必要としている物資やニーズの聞き込みから開始し、短時間で提供できる炊き出しの調理手順の考案や広報などの準備も同時に進めてきました。ボランティア当日は猛暑の中、開始時間前から多くの地元の方が並んで下さり、炊き出し各300食(冷やしうどん、フルーツポンチ、フランクフルト)と支援物資の提供を行いました。会場に足を運んでくれた方からの感謝の声や笑顔に、「実施してよかった」「少しでも復興に携われた」と多くの学生がやりがいと達成感を感じた活動になりました。



再び襲った天災

まだ能登半島地震の爪痕が残る中、9月に再び奥能登地方を襲った豪雨災害。夏のソレイユプロジェクトに参加した在学生の中に、この豪雨の影響で実家が被災した学生がいました。その学生を中心に3年次学生有志5名が集まり、プロジェクトの第2弾が発足。事前調査で輪島市町野町を訪問した際に、豪雨により壊滅的な被害を受けた地元で唯一のスーパーマーケット「もとやスーパー」の本谷一知社長に話を伺いました。その際、地元住民の期待を背負って11月30日に本格営業を再開するという前向きな話を受け、「オープニングイベント」の応援隊として星稜生による復興ボランティア第2弾の開催が決まりました。



次なる拠点は「もとやスーパー」(Vol. 2)

12月1日の復興ボランティアには、28名の2年次学生が集結しました。今回のボランティアを計画した5名の3年次学生はアドバイザーとしてサポート。体が温まるような昼食の炊き出しに加え、老若男女が楽しめる縁日、支援物資の提供などを企画、約一か月間にわたり準備を行いました。ボランティア当日はカレーうどん、豚汁、ベビーカステラ、飲料類など各200食を提供し、地元の方々と温かい愛情のある言葉を通じて交流しました。さらに本谷社長の復興への願いを込めた「壁画アート」の制作も行い、店のシンボルとなる太陽の絵が完成しました。夏と冬の

2回の復興ボランティアを通じた地域貢献を経て、学生達は社会に役立つ自己成長につながりました。



能登まるごと味覚まつり のと里山空港(Vol.3)

3月上旬、地元の方々から観光客までを招致した「能登まるごと味覚まつり」が、のと里山空港で開催されました。そのイベントの一環で学生による屋内ブースを出店。参加者5名の学生有志が集まり、子供向け緑日ブース(射的・わなげ・お菓子釣り・スーパーボールすくい)を実施し、老若男女あらゆる世代の方々とコミュニケーションをとり、能登地区の玄関口での復興に寄与しました。

